

令和元年度 学校自己評価システムシート (滑川町立福田小学校)

目指す学校像	豊かな知と心と体を育て、一人一人を生かす学校 《チーム福小！ 本気・活気・いい笑顔!!》
--------	--

重点目標	(1) 分かる授業を展開し、児童一人一人の学力を伸ばす学校 (2) 優しさや思いやりの心で、人を大切にする児童を育てる学校 (3) 児童の心身を鍛え、たくましく成長させる学校 (4) 安全で安心できる学校 (5) 児童・保護者や地域から信頼される学校
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10名
	生徒	名
	事務局(教職員)	3名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	・昨年度保護者対象教育アンケートで「先生は、児童に基礎・基本が身につくわかりやすい授業を行っている」の肯定評価87.6%、否定評価7.6%、分からない4.8%	・分かる授業 ・児童一人一人の学力の伸長	・知識・技能の確実の定着。「何を理解しているか、何ができるか」を明確にした授業づくり。 ・ねらいとまとめ(児童の言葉による)を明確化した授業づくり。 ・ICT機器を活用した授業 ・ターナちゃんノートを活用した家庭学習の充実	・保護者対象教育アンケート「先生は、児童に基礎・基本が身につくわかりやすい授業を行っている」「先生は、学力向上を目指した工夫した授業を行っている」で肯定評価90%以上。 ・各学年単元テストにおける達成率、国・算85%以上。	・保護者対象教育アンケート「先生は、……わかりやすい授業を行っている」肯定評価97.4%、否定評価0.6%、分からない1.9%。「先生は、学力向上を目指した…授業…」で肯定評価96.8%、否定評価1.3%、分からない1.9%。 ・各学年単元テストにおける達成率、国・算概ね85%以上。	A ・児童一人一人の学力の伸長については県学調の結果から各学年ともに全体として着実な伸びが見られたが学年の特性に応じたきめ細かい指導が必要。 ・新学習指導要領の全面実施に向け、求められる授業に関する一層の職員研修が必要。
2	・県学調「規律ある態度」「やさしい言葉づかい」、「ていねいな言葉づかい」については県全体として平均を上回っている。その中で6年生の「ていねいな言葉づかい」だけ平均を下回っているのが課題。	・相手を思いやる優しい言動	・「己所不欲 勿施於人」の繰り返し指導(校長講話・学級指導) ・全教育活動を通じた人権教育の推進 ・道徳科教育の充実と「考え、議論する道徳」実践 ・縦割り活動の充実 ・あいさつ運動の継続、推進	・児童の生活ふり返りアンケートで、「自分がされていやなことは人にしていない」、「『ありがとう』『ごめんなさい』と気持ちをこめて言うことができる」、「友達にやさしい言葉づかいをしている」の各項目ともに肯定評価95%以上。	・児童アンケート「自分がされていやなことは人にしていない」肯定評価97.4%、否定評価0.6%、「『ありがとう』『ごめんなさい』と…」肯定評価97.8%、否定評価2.2%、「…やさしい言葉づかい…」肯定評価91.4%、否定評価8.6%。	A ・人権教育の推進と道徳科教育の充実などの指導より、1学期より2学期の方が「自分がされていやなことは人にしていない」割合が増えた。「やさしい言葉づかい」については95%を超えなかったため来年度も継続的な指導が必要。
3	・人権感覚調査で低(1~3)学年の自己尊重の感情が低い(1年71%)ことが課題。 ・新体力テスト総合評価A+B+C合計、男子72.0%、女子87.5%で男子の体力・運動能力の底上げが課題	・自己肯定感の高揚 ・新体力テスト総合評価A+B+C合計割合のアップ	・ほめて伸ばす指導 ・特別活動の充実。学級活動、児童会活動における一人一人の活躍の場の確保 ・新体力テスト結果分析による弱点克服への取り組み ・体育の年間指導計画の見直し。	・県学調「児童質問紙調査」「自分にはいいところがありますか」県平均クリア ・新体力テスト総合評価A+B+C合計で男子80%以上	・県学調「児童質問紙調査」「自分にはいいところがありますか」4・5・6年生とも県平均を上回った。 ・新体力テスト総合評価A+B+Cが男女合計で81.9%。	A ・県学調「児童質問紙調査」では自尊感情は県平均を上回ったが人権感覚調査では2~5年生において自尊感情が低い傾向が見られたので、引き続きほめて伸ばす指導や特別活動の充実が必要。
4	・昨年度保護者対象教育アンケートで「学校は、いじめへのアンテナを高く張り、対応に努めている」の肯定評価82.6%、「よくわからない」12.6%。現段階ではいじめに関する大きな問題はないが、学校の取組を保護者に周知していくことが課題。	・いじめ解消率100%	・安心感のある温かい学級づくり ・生徒指導体制の充実 ・教育相談体制の充実 ・定期相談、チャンス相談の実施 ・保護者との密な連絡	・教育アンケート「学校は、いじめへのアンテナを高く張り、対応に努めている」の肯定評価90%以上。「よくわからない」5%以下。	・教育アンケート「学校は、いじめへのアンテナを高く張り、対応に努めている」の肯定評価84.5%、よくわからない11%。	A ・1回目調査より2回目の方が肯定評価が若干伸びたが、「よくわからない」が3%増えて11%になってしまったので、いじめ解消への取組を学校だより等で保護者に発信して「見える化」していくことが課題。
5	・「学校は、学校応援団と連携して創意工夫した教育活動に取り組んでいる」の肯定評価89%、「よくわからない」が7%いるので見える化・活性化するのが課題。	・学校応援団との連携の見える化・活性化	・学校応援団への要請、応募システムの再確認・周知 ・学校応援団コーディネーターと学校の連携体制の再構築、強化。	・教育アンケートでの学校応援団との連携に関する「分からない」をゼロにする。	・教育アンケート「学校は、学校応援団と連携して創意工夫した教育活動に取り組んでいる」の肯定評価89%、よくわからない6.5%。	B ・学校応援団の評価「分からない」1学期6.9%から2学期6.5%と若干減少した。活動内容、募集について引き続き周知を図る。また、PTA以外の地域の方々との連携も図っていききたい。

学校関係者評価	
実施日	令和2年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・教師と児童の関係がとてもよい。自由に意見が言えて雰囲気よい。先生方が子供たちを大切にしているのが分かる。 ・小規模校で1クラスの児童数が少ないことがきめ細かな指導につながっているのではない。 ・保護者アンケートの結果はすばらしい。 ・プログラミングや外国語などの新しい教育について研修を重ね、子供たちの能力を伸ばしてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「己所不欲 勿施於人」という意識は社会全体で失われつつあるのではない。子供の時から徹底させることが大切。 ・学年が上がるにつれ「ていねいな言葉遣い」ができてきているという割合が下がるのは、自分のことがよく分かっているという証ではない。 ・自己肯定感が低いというのは控えめであるという良さにつながるのではない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「ほめて伸ばす」ということでほめるときは皆の前で、叱るときは陰で個別にという指導をお願いしたい。 ・体力の向上は学校だけでは難しい。ゲームばかりにならないよう家庭の配慮も必要。 ・「ほめて伸ばす」だが、叱るときはきちんと叱ってほしい。学校だけでなく家庭もそうあるべき。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・各学級の児童数が少ないので担任の目が行き届きやすい。 ・この項目の達成度はBではなくAでよいのではないかと。(BからAに変更) ・ゲーム依存にならないよう、小学校はその入り口なので親への啓発が必要。 ・虐待事案はないか。ある(疑われる)場合は早期の対応をお願いしたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人の多くは福田小学校の卒業生なのだから、奉仕作業など地域全体に呼びかけ、地域で取り組んだらどうか。 	